R7 楡木小学校　学校通信
No.２６
なりたい自分になる！
In 楡木サラダボウル
令和７年１０月３１日
文責　余宮

学習発表会への応援、大変ありがとうございました。ここに至るまでのご支援にも心より感謝申し上げます。

フィジカルに寄り添う

あれ？ちかさん（仮名）の悲しそうな姿が遠目にあります。何かあったのかな？近づき、声を掛けますが、私はなかなかうまく声が掛けられません。そこに、みかさん（仮名）がそっと近づき、おもむろにランドセルからノートを取り出し、何やら書き込みを。よく見ると、メッセージなどでよく見る絵文字みたいなお顔が描かれています。みかさんはちかさんにその絵を見せ、顔を覗き込みました。程なく、ちかさんからみかさんへ絵文字の返信が。何度か、そのやり取りが交わされるうち、みるみるちかさんの表情が明るくなっていきました。

驚きました。

言葉が交わされたわけではなかったのですが、心が通じ合ったとしか表現しようのないコミュニケーションが、私の目の前で行われたのです。

SNS などインターネットでの交流が盛んになり、まだ見ぬ友達の存在が取りざたされる昨今、それらの声に励まされる、という声を聴くようになりました。まったく知らない人からの励ましが、大きな力になる。もちろん大変すばらしいことです。ただ、逆に身近な人の声が煩わしく感じるという人も少なからずいるとのこと。

果たして、本当にそれでいいのでしょうか。

ネット上のつながりを否定するつもりは、まったくありません。自分を応援してくれるまだ見ぬ人の存在が、ある意味自信や励ましにつながり、その一歩が踏み出せた（逆に踏みとどまった）ということは、誰もが経験したことがあるでしょう。

ただ、その声は本当なのか、と疑いたくなる場面もあります。

生成 AI に限らず、テクノロジーの進化に伴い、情報が氾濫する今日（こんにち）、その情報の取捨選択が課題として挙げられています。実際、その取捨選択をネットが代替えしてくれる場面も。私も某ネットショッピングの広告を見て、「あ～こんなのが欲しかったのだよね。わかっているね」と親近感を覚えることも少なくありません。フィルターバブルと呼ばれるこのような状況の中、いつしかそこは自分が欲するヴァーチャル環境に。そこには、自分を否定するような状況はない上に、自分を叱咤激励するような本当の意味での応援も影を潜めます。本来は疑ってしかるべき事象に対しても自信がみなぎり、全能感が漂い始めます。振り返ってみれば失敗だったとわかるようなことにも固執し、挙句の果ては、間違いは自分以外にあると思いがち。

ちょっと極論が過ぎました。ただ、情報が氾濫する現代では、このような状況が起こりかねないのは事実です。あ～恐ろしい。

サイバー空間（デジタル空間）とフィジカル空間（現実の空間）を高度に融合された人間中心の社会＝Society5.0 と言われる今、特にフィジカルでの関係性が見直されてきています。フィジカルで固有名詞性をもった世界では、確かに煩わしい部分もあるかもしれません。しかし、そのあたたかさややわらかさ、実感を伴った信頼関係はかけがえのないものです。そう、ちかさんがみかさんに感じた確かなつながりです。そんなフィジカルなつながりこそを、重視する必要があるのではないかと思えた、今日の一幕でした。